

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	夢門塾白楽		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画の作成・見直しが丁寧に行われており、保護者からも高い評価を得ている。アセスメントを踏まえた支援が実践され、計画と実践の整合性が取れている点が強みである。	昼礼・夕礼・支援前後の打ち合わせを通じたチーム支援体制が整っている。ヒヤリハット共有や振り返りも行われており、組織的な支援運営ができています。	職員間での支援理解の差をなくすため、ケース共有やOJTを強化し、誰が関わっても一定水準の支援ができる体制を目指す。
2	保護者満足度が非常に高く、「安心して通えている」「楽しく通っている」との声が多い。日々の情報共有や対応の丁寧さが信頼関係につながっている。	掲示物の整理や動線の工夫など、刺激を減らした構造化環境を意識している。活動内容に応じて机配置を変えるなど柔軟な空間活用を行っている。	職員間での支援理解の差をなくすため、ケース共有やOJTを強化し、誰が関わっても一定水準の支援ができる体制を目指す。
3	昼礼・夕礼・支援前後の打ち合わせを通じたチーム支援体制が整っている。ヒヤリハット共有や振り返りも行われており、組織的な支援運営ができています。	終業前に振り返りの時間を設け、1日の活動を言語化する機会を作るなど、支援の質向上と子どもの自己理解を促している。	家族支援プログラムの体系化を進め、保護者同士の交流や学びの機会を拡充する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラムの体系化を進め、保護者同士の交流や学びの機会を拡充する。	建物構造上の制約により空間確保が難しい。	空間の使い方や時間帯分散により、静養・活動スペースの明確化を進める。
2	静養室や個別スペースが十分でなく、環境面に制約がある。	非常勤職員を含む体制の中で情報浸透に差が出やすい。	ケース検討やロールプレイを通じて共通理解を深め、支援の均一化を図る。
3	一部衛生管理面（トイレ等）で改善余地がある。	マニュアル整備はしているが、保護者への伝達が十分でない。	通信・面談・説明会を活用し、安全体制や支援方針の「見える化」を強化する。